

報告書の活用例

・1707 富士山宝永噴火

神奈川県立歴史博物館特別展「富士山大噴火－宝永の「砂降り」と神奈川－」
平成 18 年 11 月 12 日 於：神奈川県横浜市

・1923 関東大震災（第1編）

第2回消防科学技術寄付講座公開セミナー
「関東大地震についての新しい知見とそこから得られる教訓」
平成 18 年 10 月 10 日 於：文京区（東京大学）

・1783 天明浅間山噴火

フォーラム「浅間山を知る」 平成 18 年 5 月 28 日 於：群馬県中之条町
平成 18 年 6 月 25 日 於：長野県御代田町

・1891 濃尾地震

「岐阜県防災の日」制定記念フォーラム「濃尾地震から導く現代への教訓」
平成 17 年 11 月 6 日 於：岐阜県岐阜市

・1982 長崎豪雨災害

「長崎豪雨災害の教訓に関する調査報告会」
平成 17 年 3 月 28 日 於：長崎県長崎市

今後の活用予定

・1854 安政東海・安政南海地震

歴史地震研究大会における講演会（下田市、歴史地震研究会共催）
平成 19 年 9 月 15～17 日 於：静岡県下田市

・1847 善光寺地震

フォーラム（仮称）（長野県主催）
平成 19 年 5 月下旬～6 月上旬頃 於：長野県

・1990 雲仙普賢岳噴火

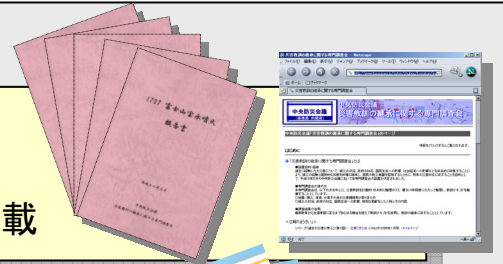
第5回火山都市国際会議中のフォーラム（島原市、日本火山学会主催）
平成 19 年 11 月 19 日～23 日 於：長崎県島原市

報告書の活用について

現在の活用策

報告書本体の配付等

- 都道府県防災担当部署等への配布、
- 内閣府防災担当のホームページへの報告書掲載



報告書内容の広報

- 報告書作成分科会委員による「広報ぼうさい」への寄稿



報告書内容の海外への普及・啓発

- 国連防災世界会議におけるフォーラムの開催
- 同会議におけるパンフレットの配布



報告書を活用した講演会等（報告書作成分科会委員による）

- 「1982長崎豪雨災害報告書」 於：長崎
- 「1891濃尾地震報告書」 於：岐阜
- 「1783天明浅間山噴火報告書」 於：群馬、長野



今後の活用策の検討

(1) 専門調査会報告書の活用

・報告書を活用した 講演会・講義等の推進

- ・報告書の広報の促進
「広報ぼうさい」への寄稿の促進
- ・報告書内のコラムの活用
様々な機会を通じて紹介、
防災教育等における利用（(2)参照）の促進

例

災害教訓普及専門家リスト（仮称）
「（報告書執筆委員等）」

『〇〇災害』
分野：災害概要、対応、情報、...
委員：***、***、***、...
...

窓口：内閣府防災担当

申し込み

派遣依頼

行政機関
防災関係機関等

執筆委員等

講義等

(2) 「災害被害を軽減する国民運動の推進に関する基本方針」に基づく 災害履歴の活用

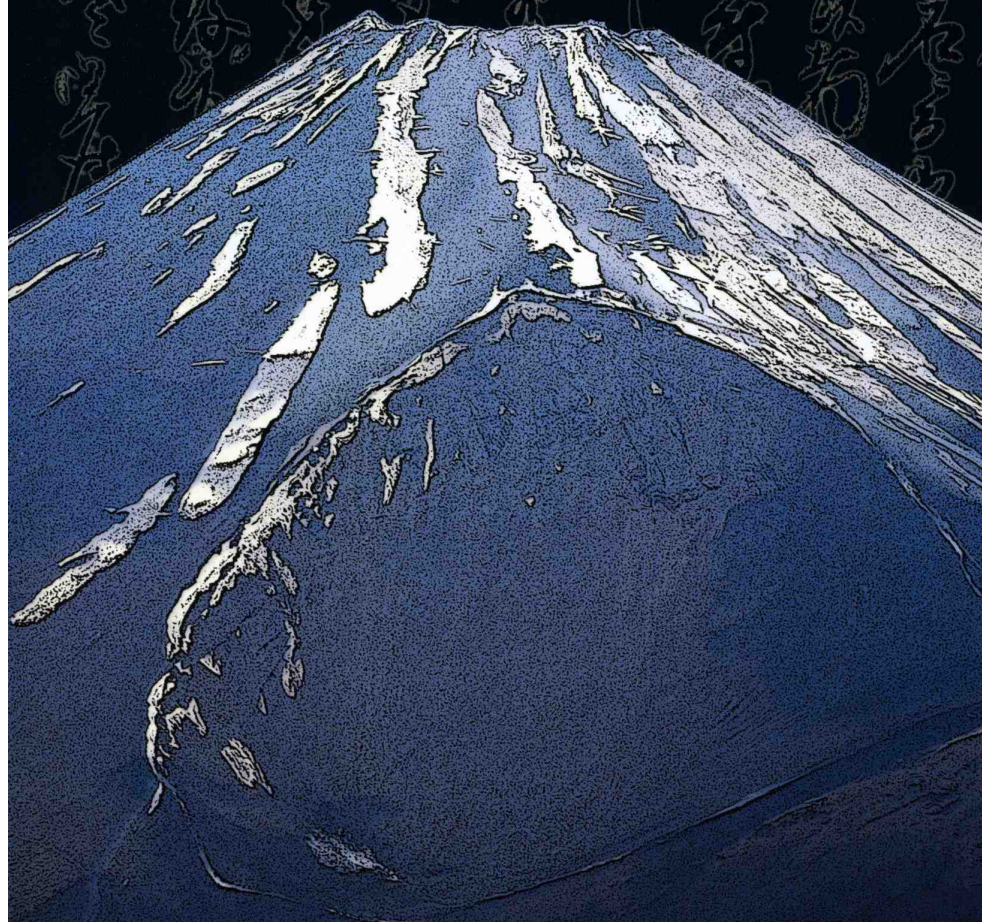
- ・“防災（減災）活動へのより広い層の参加”を促すために報告書を活用
- ・報告書内容を“（正しい知識を）魅力的な形でわかりやすく提供する”。等

特別展

「宝永の「砂降り」と神奈川」

1707

富士山大噴火



神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

平成18年

10月14日^土▲11月19日^日

【時 間】9時30分～17時

毎週金曜日は特別展のみ20時まで(入館はいずれも閉館30分前まで)

【休館日】毎週月曜日

【観覧料】大人800円(700円)/20歳未満・学生500円(400円)

※高校生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方は無料

※()内は20名以上の団体割引料金

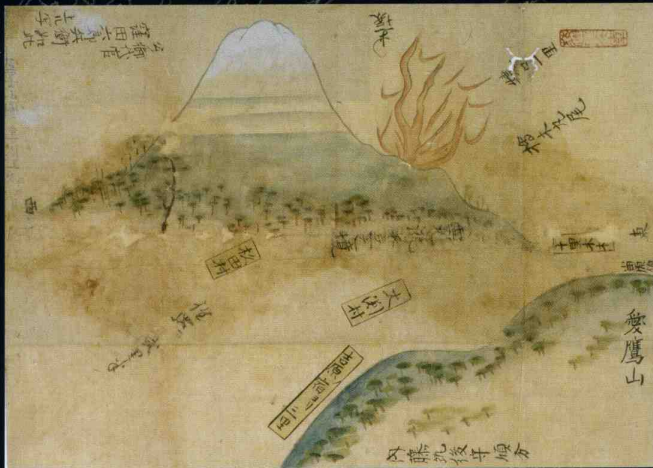
【交通】東横・みなとみらい線 「馬車道駅」から徒歩1分

JR・市営地下鉄 「桜木町駅」「関内駅」から徒歩8分

〒231-0006 横浜市中区南仲通5-60

Tel:045-201-0926 Fax:045-201-7364





富士山図（享保5年写・上図）

名古屋市蓬左文庫蔵
幕府の代官が吉原宿方面から噴火の様子を調査し、報告用に描いた絵図を写したものと考えられます。



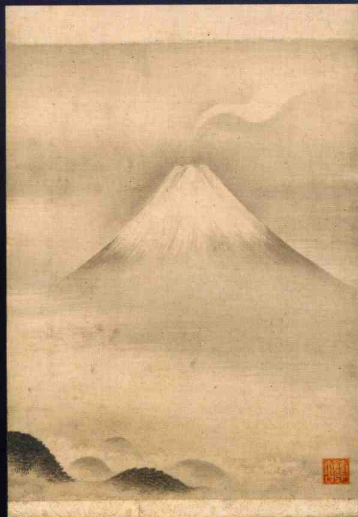
現在の宝永火口（右上図）

静岡県裾野市の富士サファリパーク近くの「忠ちゃん牧場」から見た宝永噴火口と宝永山



人工衛星から見た富士山（右図）

山頂右下の白い点が宝永山、そこから左上に接して宝永火口。火口右側に扇型に広がる黒い部分は宝永噴火の分厚い噴出物で植生が十分復活していません。



富士八景図 其三 部分

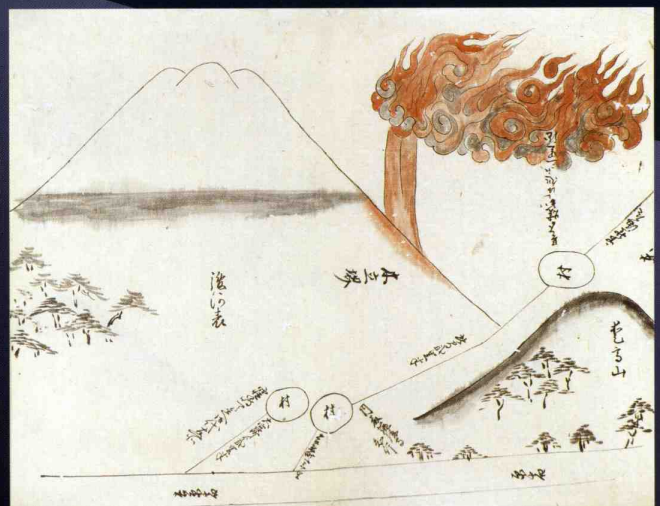
（式部輝忠筆 享禄3年頃・左図）
静岡県立美術館蔵

噴煙を上げる富士が描かれています。実景描写ではありませんが、活火山富士をイメージできます。

富士山噴火絵図（右図）

宮城県立図書館保管

伊東志摩守日記に書き写されている噴火絵図です。日記には駿河の代官が幕府に提出した絵図と記されています。



次回特別展示のご案内

大漁の証 万祝(まいわい)

会 期
平成19年2月3日(土)~3月11日(日)
休館日
毎週月曜日(2月12日は開館)

万祝とは大漁を祝って船主や網主が船子・網子に贈った祝着です。万祝に染められている絵柄には、松竹梅・鶴亀・七福神などのめでたいもの、千鳥に波模様・注連縄（しめなわ）、マグロ・カツオ・鯨などの当時の捕獲対象魚と漁法が描かれたものなど、バラエティーにとんでいます。本展では各地に残されたさまざまな絵柄の万祝を紹介し、海の男の晴れ姿を鑑賞していただきます。

<http://ch.kanagawa-museum.jp/>

後援：内閣府政策統括官（防災担当）・神奈川新聞社・朝日新聞横浜総局・毎日新聞横浜支局・読売新聞横浜支局・産経新聞横浜総局・東京新聞横浜支局・日本経済新聞横浜支局・NHK横浜放送局・TBS（テレビ神奈川）

富士山大噴火

富士山の山腹に大きな穴があるのをご存じですか？宝永大噴火の跡です。その横には宝永山があります。宝永4年11月23日（1707年）突如大噴火が始まりました。噴火は半月で終わりましたが、噴出した膨大な火山灰は神奈川県域にも大量に降りそそぎました。人々はこれを「砂降り」と呼び、耕地はもちろん屋敷地・道路・水路・山野等すべてが砂で埋め尽くされてしまいました。生活や生産の基盤は根こそぎ破壊され、復旧には長い年月が必要でした。人々は宝永噴火の後遺症に長く苦しめられたのです。

本展覧会では、宝永噴火の様相と、神奈川県域における被災、復興とに焦点をあてて様々な資料を紹介し
ます。

展示構成

1. 活動する火山、富士山
2. 宝永大噴火
3. 宝永の「砂降り」と神奈川県域
4. その後の「宝永山」

① 記念講演会

10月29日（日）14時から

「富士山の火山活動と宝永噴火」

講師：東京都立大学名誉教授 日本第四紀学会会長 町田 洋 氏

② 「1707 富士山宝永噴火報告書」報告会

11月12日（日）13時30分～16時

中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」報告書に基づく報告会

報告者 平野 啓子 氏（語り部・キャスター・武蔵野大学講師）

荒牧 重雄 氏（山梨県環境科学研究所長）

久保田昌希 氏（駒沢大学文学部歴史学科教授）

井上 公夫 氏（日本工営株式会社コンサルタント国内事業本部副技師長）

下重 清 氏（東海大学文学部講師）

司 会 伊藤 和明 氏（NHK 解説者）

北原 糸子 氏（東洋大学社会学部講師）

①事前申込み制

募集定員：70名（応募者多数の場合は抽選）

受講料：無料（ただし、特別展観覧券が必要）

申し込み方法：「往復はがき」か「電子メール」で、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記のうえ、10月19日（木）必着で当館へ

〒231-0006 横浜市中区南仲通 5-60

(E-Mail: kikaku@kanagawa-museum.jp)

②募集定員：70名（当日13時より先着順受付）

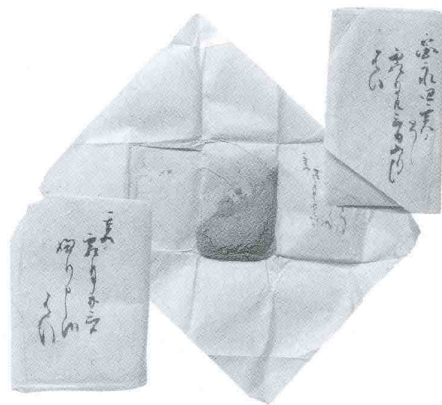
参加費：無料

学芸員による展示解説

10月22日（日）・11月5日（日） 13時30分から



1707年 —宝永の「砂降り」と神奈川—



柳沢藩の江戸藩邸で採取、保存されていた噴火初日の火山灰
大和郡山市教育委員会蔵

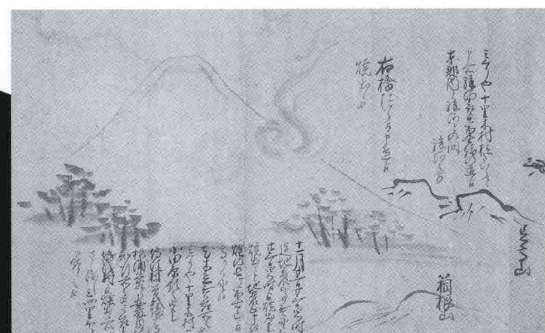


「宝永四年亥十一月大砂降記」
に描かれている噴火絵図

個人蔵



小舟村(小田原)名主による噴火の記録 個人蔵



噴火見分絵図 個人蔵

■主な出品リスト■

遊行上人縁起絵 第8巻 (重要文化財)

竹取翁井かぐや姫絵巻物

永享四年連歌懐紙 (愛知県指定文化財)

新井白石日記

伊能景利日記

基熙公記

伊東志摩守日記

鸚鵡籠中記

塩尻

日本三代実録 (写本)

更級日記 (写本)

下総佐原で採取・保存されていた火山灰

火山灰で埋没した家屋跡からの出土品

神奈川県内各地の古文書・村絵図類 など多数

真光寺

宮内庁

円福寺

慶応義塾大学

個人蔵

陽明文庫

東京大学史料編纂所

徳川林政史研究所

宮内庁/国立公文書館

国立公文書館

国立公文書館

伊能忠敬記念館

御殿場市教育委員会



横山大観 日本心神 (富士山)

近代美術館 葉山

時代と美術の多面体

— 近代の成立期に光をあてて —
Aspects of Modern Art in Japan

1月13日(土)~3月25日(日)

← さらに、近代に描かれた富士山の名品はココで！

1910~30年代は、美術の領域でも「近代的」な考え方や技術が開花しようになった時代である。そうした「近代」の成立期に特徴的な視点やトピックスをセクション別に設けて、近代美術のエッセンスや多様性を再検証する。

Tel : 046-875-2800

第2回消防防災科学技術寄付講座公開セミナーご案内

主題:「関東大地震についての新しい知見とそこから得られる教訓」

主催:東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻

消防防災科学技術寄付講座(関沢研究室)

URL : <http://www.fse.t.u-tokyo.ac.jp>

いつ起きても不思議ではないと言われる東海地震をはじめ、東南海地震、南海地震などの巨大地震や首都直下地震の被害予測や防災対策が関心を呼んでいます。80年以上も前に発生した1923年関東大地震は、海溝型地震であると同時に震源断層が大都市近辺にまで潜り込んでいたことにより直下地震としての特性も有していました。そのために、津波、地盤災害、建物被害、そして火災被害と実に様々な被害様相を呈しながら、かつ東京や横浜などに甚大な被害を及ぼしました。

このたび、この関東大地震についての最新の知見とそこから得られる教訓について各専門の方からご講演いただくとともに、これから我々が備えるべき課題について討論を行うことを目的として、下記の要領で本寄付講座主催の第二弾公開セミナーを開催することに致しました。ついては、本公開セミナーに、ぜひ多くの方にご参加頂きますようご案内申し上げます。

記

日時:平成18年10月10日(火) 13:30-17:00 (開場 13:00)

場所:東京大学 山上会館大会議室 (本郷キャンパス内三四郎池近く)

主題:「関東大地震についての新しい知見とそこから得られる教訓」

13:30-13:35 開会の挨拶

内閣府政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官

荒木潤一郎

東京大学消防防災科学技術寄付講座客員教授

関沢 愛

13:35-14:20 (1)「被害の全体像:地震の様相、揺れ、津波」

鹿島建設

武村雅之

14:20-15:05 (2)「各地の土砂災害、地盤災害」

日本工営

井上公夫

15:05-15:50 (3)「火災による被害」

東京大学消防防災科学技術寄付講座

西田幸夫

休憩(20分)

16:10-17:00 (4)パネルディスカッション 司会 関沢 愛

※パネリストは講師3名に加えて鈴木淳先生(東京大学大学院)を予定しています

参加申込:講演会参加費は無料。なお、会場が100名規模ですので、参加ご希望の方は平成18年9月25日(月)までにできるだけお早めにお申し込みください。

申込は、以下の項目を記入して下記申込先にFAX,あるいはE-mailにてお申し込み下さい。

1)氏名 2)所属 3)連絡先(勤務先住所・電話及びFAX・E-mail)

FAX(03)5841-7327 E-mail : takahashi@fse.t.u-tokyo.ac.jp (高橋あて)

■主催 浅間山火山防災対策連絡会議

■後援 内閣府政策統括官(防災担当)／群馬県／上毛新聞社

Forum

フォーラム

“浅間山を知る”

防災の第一歩を
歴史から学ぶ

天明の噴火

中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 『1783 浅間山天明噴火』より

群馬の風土を考える上で最も大きな歴史災害の一つが、「浅間焼け」とか「押出し」と呼ばれる天明三年(1783)の浅間山噴火です。223年前の8月5日、群馬県側では岩屑なだれや天明泥流により1,500人以上の人々が犠牲になりました。

天明三年浅間山噴火とその災害について、最新の火山学の知識に基づく分析や、考古学の発掘調査による成果、歴史的な事実についての紹介や噴火被害を乗り越えた人々の努力などについて、最新の調査成果を紹介する講演会を開催します。

【日時】 平成**18**年**5**月**28**日(日)

午後1時30分～午後4時30分(開場:午後1時)

【会場】 吾妻郡生涯学習複合施設(ツインプラザ)

吾妻郡中之条町大字伊勢町

【参加方法】 参加無料、事前申し込み不要(定員190名)

【……………プログラム……………】

◆基調講演 (13:40～14:20)「浅間山の火山防災」

荒牧重雄(東京大学名誉教授・火山学)

◆フォーラム (14:30～16:30)

★コーディネーター: 伊藤和明(防災情報機構会長)

／「災害教訓の継承に関する専門調査会」座長)

★話題提供者: 安井真也(日本大学専任講師・火山学)

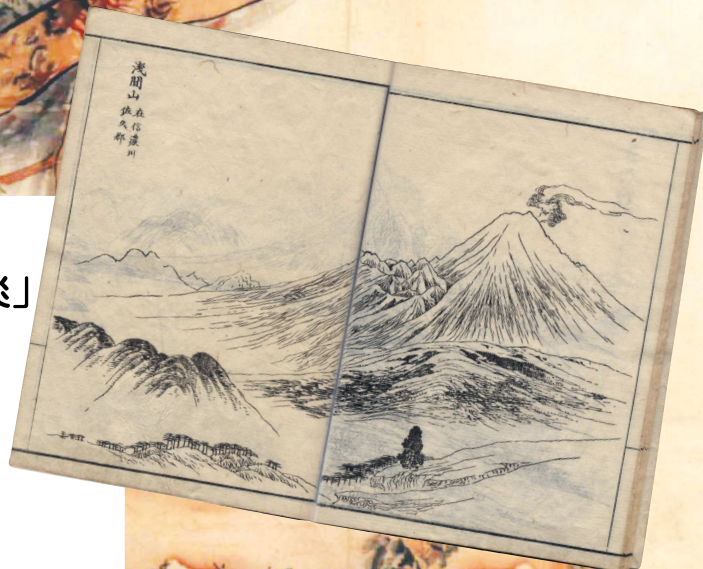
渡辺尚志(一橋大学大学院教授／分科会主査・歴史学)

関 俊明(元 群馬県埋蔵文化財調査事業団・考古学)

大浦瑞代(お茶の水女子大学大学院生・歴史地理学)

小菅尉多(国土防災技術株式会社環境保全部長・砂防工学)

◆別途、長野県・御代田町浅間縄文ミュージアム6月25日(日)を開催予定。



「日本名山図會・浅間山」

“浅間山を知る”

浅間山圖

ふじ

日時 **平成 18 年 6 月 25 日 (日)** 13:30-16:30
場所 **浅間縄文ミュージアム** あつもりホール (入場無料)

大浦瑞代（お茶の水女子大学）

しなの鉄道みよた駅下車 徒歩7分

11月晴々ありて、今夜強て焼く。と曉より羽下を焼
 別々居て、一時古く未嘗ある大焼。羽下初居ありて、
 乃雷つばぬ。焚く。是より。無方あり。以て。

「岐阜県防災の日」制定記念フォーラム
『濃尾地震から導く現代への教訓』
を開催いたしました（平成17年11月6日）。



※本フォーラムの様子は11月16日の岐阜新聞朝刊にて特集記事を掲載する予定です。

主 催 岐阜県、岐阜新聞・岐阜放送
後 援 内閣府、岐阜市、朝日新聞社、NHK岐阜放送局
開催日時 平成17年11月6日（日） 午後1時30分開始
開催場所 ホテルグランヴェール岐山（岐阜市柳ヶ瀬通）カルチャーホール
定 員 300名

岐阜県では濃尾地震（1891年）発生の日10月28日を「岐阜県地震防災の日」と制定しました。来るべき東海、東南海地震や内陸型地震など巨大地震発生に際しての被害を最小限に食い止めるための県民の防災意識向上に資することが狙いです。一方、国においても今年、中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会小委員会」における濃尾地震分科会が今年9月末の刊行をめぐり写真データベースCD入り報告書をまとめています。フォーラムでは、これらに関わった方々から貴重な意見を頂きながら防災への関心を高めていきます。

出 演 ◇挨拶 県防災局長
◇基調講演 [伊藤和明氏](#)（NPO法人 防災情報機構会長）
◇コーディネーター [山岡耕春氏](#)（東京大学地震研究所教授）
◇パネリスト
[北原系子氏](#)（神奈川大学非常勤講師）
[松田之利氏](#)（岐阜市立女子短大学長）
[戸松 修氏](#)（岐阜大学教授）
[西澤泰彦氏](#)（名古屋大学助教授）

問合せ先

岐阜新聞・岐阜放送 事業局 【防災の日フォーラム】係
電話 058（264）7010 FAX 058（265）1632
E-mail：kyokun@gifu-ne.co.jp

[もどる](#)

長崎豪雨災害の教訓に関する調査報告会

3月28日長崎県農協会館において、気象台、自衛隊、警察、市町村、消防機関など各方面から約250名の方々に参加していただき、中央防災会議の「災害教訓の継承に関する専門調査会」と長崎県との共催によりまして、「長崎豪雨災害の教訓に関する調査報告会」を、被災地である長崎において開催いたしました。

この報告会を契機に、長崎大水害の教訓を振り返り、県民みなさまの心の中にいつまでも継承し続けることを願っております。

1 日時：平成17 年3 月28 日（月）午後2 時～ 午後5 時

2 会場：長崎県農協会館7 階会議室（長崎市出島町1 － 20 ）

3 概要：

（１）挨拶

- ・吉田岩水長崎県総務部理事
- ・伊藤和明元NHK 解説委員（中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」座長）

（２）講演

高橋和雄長崎大学工学部教

（中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」長崎豪雨災害分科会主査

（３）パネル・ディスカッション

- | | |
|--------|---------------------|
| ・伊藤和明 | 元NHK 解説委員（コーディネーター） |
| ・川原 孝 | 長崎県諫早土木事務所長 |
| ・瀬尾克美 | （株）日さく常務執行役員 |
| ・高橋和雄 | 長崎大学工学部教授 |
| ・槌田禎子 | テレビ長崎記者兼デスク |
| ・浜下嘉壽雄 | 長崎市奥山地区自治会長 |
| ・川原邦博 | 長崎県危機管理・消防防災課長 |

主催

- ・中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」長崎豪雨災害分科会
〔事務局：内閣府（防災担当）災害情報調査室〕
- ・長崎県



あいさつ(長崎県総務部理事)



あいさつ(伊藤和明元NHK 解説委員)



講演(高橋和雄長崎大学工学部教授)



講演2



パネル・ディスカッション



北原糸子神奈川大学非常勤講師 発言





中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会

中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」のページ

項目をクリックするとご覧になります。

はじめに

■「災害教訓の継承に関する専門調査会」とは

■設置目的・経緯

過去に経験した大災害について、被災の状況、政府の対応、国民生活への影響、社会経済への影響などを体系的に収集することにより、被災の経験と国民的な知恵を的確に継承し、国民の防災意識を啓発するとともに、将来の災害対応に資することを目的として、平成15年5月の中央防災会議において本専門調査会の設置が決定されました。

■専門調査会の進め方

本専門調査会は、以下の点を中心に、災害教訓を計画的・体系的に整理のうえ、概ね10年程度にわたって整理し、教訓テキストを整備することとしています。

- 地震、噴火、津波、水害その他の災害種類別の取りまとめ
- 被災の状況、政府の対応、国民生活への影響、特別な貢献をした人物とその内容

■調査結果の活用

義務教育から生涯学習に至るまであらゆる機会を捉えて教訓テキストを活用し、教訓の継承に資することとしています。

<広報「ぼうさい」> … 読み切りシリーズ「過去の災害に学ぶ」 **まずはココから！**

- ・第1回「**歴史災害の見直しと災害教訓の検証**」、No.25 (2005年1月号), 18 -19ページ
- ・特別編「**津波と稲むらの火**」、No.26 (2005年3月号), 14- 15ページ
- ・第2回「**明暦3年 (1657) 江戸大火と現代的教訓**」、No.26 (2005年3月号), 16-17ページ
- ・第3回「**1982長崎豪雨災害**」、No.27 (2005年5月号), 18-19ページ
- ・第4回「**1896年明治三陸地震津波**」、No.28 (2005年7月号), 18-19ページ
- ・第5回「**1888年磐梯山噴火災害**」、No.30 (2005年11月号), 18-19ページ
- ・第6回「**寛文2年 (1662) 近江・若狭地震**」、No.32 (2006 年3月号), 14-15ページ
- ・第7回「**安政2年 (1855) 江戸地震**」、No.33 (2006年5月号), 12-13ページ
- ・第8回「**明治23年 (1890) エルトゥールル号事件**」、No.34 (2006年7月号), 16-17ページ
- ・第9回「**天明3年 (1783) 浅間山噴火**」、No.35 (2006年9月号), 16-17ページ
- ・第10回「**明治24年 (1891) 濃尾地震**」、No.36 (2007年 11月号), 16-17ページ

<報告書の活用例>

- ・1707富士山宝永噴火：**平成18年11月12日**、神奈川県立歴史博物館特別展『富士山大噴火ー宝永の「砂降り」と神奈川ー』
- ・1783天明浅間山噴火：**平成18年5月28日 (於群馬県)**、**6月25日 (於長野県)**、フォーラム「浅間山を知る」
- ・1891濃尾地震：**平成17年11月6日**、「岐阜県防災の日」制定記念フォーラム『濃尾地震から導く現代への教訓』
- ・1982長崎豪雨災害：**平成17年3月28日**、長崎豪雨災害の教訓に関する調査報告会

期別の調査結果等

■ 第1期 (平成15年度－平成16年度)

■ 第1期委員名簿

■ 第1期専門調査会

- ・第1回 [開催案内](#) (平成15年07月29日) [会議資料](#) (平成15年07月31日)
- ・第2回 [開催案内](#) (平成15年12月18日) [会議資料](#) (平成15年12月22日)
- ・第3回 [開催案内](#) (平成16年03月04日) [会議資料](#) (平成16年03月08日)
- ・第4回 [開催案内](#) (平成16年09月13日) [会議資料](#) (平成16年09月15日)
- ・第5回 [開催案内](#) (平成17年02月16日) [会議資料](#) (平成17年02月23日)

■ 第1期報告書

[地震・津波災害]

- ・1662 [寛文近江・若狭地震](#) (平成17年3月)
- ・1854 [安政東海地震・安政南海地震](#) (平成17年3月)
- ・1855 [安政江戸地震](#) (平成16年3月)
- ・1891 [濃尾地震](#) (平成18年3月)
- ・1896 [明治三陸地震津波](#) (平成17年3月)

[風水害]

- ・1982 [長崎豪雨災害](#)

[火山災害]

- ・1707 [富士山宝永噴火](#) (平成18年3月)
- ・1783 [天明浅間山噴火](#) (平成18年3月)
- ・1888 [磐梯山噴火](#) (平成17年3月)

[火災]

- ・1657 [明暦江戸大火](#) (平成16年3月)
- ・1976 [酒田大火](#) (平成18年3月)

[その他の災害]

- ・1890 [エルトゥールル号事件](#) (平成17年3月)

■ 第2期 (平成17年度－平成18年度)

■ 第2期委員名簿 (第1期と変更なし)

■ 第2期専門調査会

- ・第6回 [開催案内](#) (平成17年12月02日) [会議資料](#) (平成17年12月07日)
- ・第7回 [開催案内](#) (平成18年03月20日) [会議資料](#) (平成18年03月22日)
- ・第8回 [開催案内](#) (平成18年07月18日) [会議資料](#) (平成18年07月21日)
- ・第9回 [開催案内](#) (平成18年12月12日)

■ 第2期報告書

[地震・津波災害]

- ・1847 [善光寺地震](#)
- ・1923 [関東大地震](#) (平成18年7月)
- ・1944 [東南海地震](#)・1945 [三河地震](#)

[風水害]

- ・1959 [伊勢湾台風](#)

[火山災害]

- ・1990 [雲仙普賢岳噴火](#) (平成18年12月予定)
- ・1926 [十勝岳噴火](#) (平成18年12月予定)